科目	科目名			指導担当者名 髙橋 利行			利行		
実務	経験	洋	前防機関での救急	救急救命士業務従事 実務経験			実務経験:	有	
開講	時期	前期		対象学	科学年	求	枚急救命士科1年	Į.	
授業	方法	講義:〇	演	習:	実	習:	実担	支:	
単位	立数	4単位		週時間数		2時	計 間		
・五感を活用した観察方法を理解する。 ・観察用資機材の構造と使用方法について理解する。 ・五感を活用した観察情報と観察用資器材を用いた情報の意味合いを理解する。 ・傷病者等との良好な関係力構築方法と問診内容について理解する。 ・緊急度・重症度判断を理解できる。・傷病者の傷病状態に応じた救命処置等を理解する				ే .					
学習評価は、20点満点の試験を5回行い、その合計得点にて行う。 評価方法 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 評価基準 ・100~80点…A、・79~70点…B、・69~60点…C ・59~0点…D(不合格)									
使用教材 救急救命士標準テキスト、救急観察処置スキルマニュアル									
授業外学習 の方法 テキストを使用した予復習									
学期	ターム	項目			内	容•準備資料	等		
	1	観察		観察の目的と意義、バイタルサイン					
	2	観察		観察の方法					
	3	現場活動の基本		状況評価~全身	}観察∙重点観察	}			
	4	現場活動の基本		緊急度判断と医	療機関選定				
	5	全身状態の観察		外見、気道、呼呼	吸、循環				
	6	全身状態の観察		意識、神経学的	所見				
授	7	局所の観察		観察結果の表現	見~頭部∙顔面∙◙	頭部			
業 計	8	局所の観察		胸部〜観察アル	/ ゴリズム				
画前	9	緊急度•重症度判断		緊急度と重症度	:				
期	10	緊急度•重症度判断		判断の基準					
	11	資器材による観察		パルスオキシメ	ータ―~血圧計				
	12	資器材による観察		心電図モニター	~血糖測定器				
	13	効果測定		観察•現場活動	•緊急度判断				
	14	救急救命士が行う処置		気道確保・声門.	上気道デバイス				
	15	"		気道確保・声門.	上気道デバイス				

- 1. 自ら学ぶ意識を醸成する。2. 傷病者の観察、判断、処置が傷病者の命を左右することを重大さを意識づける。※授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。また、対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

科目	科目名 救急医学概論 I 指導担当者名 髙橋				利行			
実務	経験	洋	肖防機関での救急	救急救命士業務従事 実務経験:				有
開講	時期	後期		対象学	科学年	救	(急救命士科1年	丰
授業	方法	講義:〇	演	習:	実	習: :	実技	支:
単位	立数	4単位		週時間数		2時	間	
学習到	達目標	・五感を活用した観察情報と ・傷病者等との良好な関係ナ	用した観察方法を理解する。 機材の構造と使用方法について理解する。 用した観察情報と観察用資器材を用いた情報の意味合いを理解する。 との良好な関係力構築方法と問診内容について理解する。 「症度判断を理解できる。・傷病者の傷病状態に応じた救命処置等を理解する。					
学習評価は、20点満点の試験を5回行い、その合計得点にて行う。 評価方法 評価基準 ・100~80点…A、・79~70点…B、・69~60点…C ・59~0点…D(不合格)								
使用教材 救急救命士標準テキスト、救急観察処置スキルマニュアル								
授業外学習 の方法 テキストを使用した予復習								
		内容·準備資料等						
学期	ターム	項目			内	容•準備資料		
学期	ターム 16	項目 救急救命士が行う処置		気管挿管	内	容•準備資料	等	
学期				気管挿管 気管吸引、酸素		容・準備資料	等	
学期	16	救急救命士が行う処置		気管吸引、酸素			等	
学期	16	救急救命士が行う処置		気管吸引、酸素	投与		÷	
学期	16 17 18	救急救命士が行う処置 " 効果測定		気管吸引、酸素 声門上気道ディ	: 投与 バイス、気管挿管 管理		*	
学期	16 17 18 19	救急救命士が行う処置		気管吸引、酸素 声門上気道デ/ 体位管理、体温	投与 バイス、気管挿管 管理 要領		**************************************	
学期	16 17 18 19 20	救急救命士が行う処置 パ 効果測定 体位管理・保温・止血 外傷処置		気管吸引、酸素 声門上気道デ/ 体位管理、体温 止血被覆、固定	: 投与 ・イス、気管挿管 管理 ・要領		*	
授業	16 17 18 19 20 21	救急救命士が行う処置 パ 効果測定 体位管理・保温・止血 外傷処置 静脈確保・薬剤投与		気管吸引、酸素 声門上気道デバ 体位管理、体温 止血被覆、固定 静脈確保、薬投	投与 バイス、気管挿管 管理 要領 :		*	
授業計画	16 17 18 19 20 21 22	救急救命士が行う処置 パ 効果測定 体位管理・保温・止血 外傷処置 静脈確保・薬剤投与 パ		気管吸引、酸素 声門上気道デ/ 体位管理、体温 止血被覆、固定 静脈確保、薬投 静脈確保、薬投	投与 バイス、気管挿管 管理 要領 :		*	
授業計	16 17 18 19 20 21 22 23	救急救命士が行う処置 パ 効果測定 体位管理・保温・止血 外傷処置 静脈確保・薬剤投与 パ 効果測定		気管吸引、酸素 声門上気道デ/ 体位管理、体温 止血被覆、固定 静脈確保、薬投 静脈確保、薬投	投与 バイス、気管挿管 管理 要領 : : : : : : : : : : : : :		-	
授業計画後	16 17 18 19 20 21 22 23 24	救急救命士が行う処置 パ 効果測定 体位管理・保温・止血 外傷処置 静脈確保・薬剤投与 パ 効果測定 救急蘇生法		気管吸引、酸素 声門上気道デ/ 体位管理、体温 止血被覆、固定 静脈確保、薬投 静脈確保、薬投 静脈確保、薬投	投与 バイス、気管挿管 管理 要領 : : : : : : : : : : : : :		*	
授業計画後	16 17 18 19 20 21 22 23 24 25	救急救命士が行う処置 パ 効果測定 体位管理・保温・止血 外傷処置 静脈確保・薬剤投与 パ 効果測定 救急蘇生法 救急蘇生法		気管吸引、酸素 声門上気道ディ 体位管理、体温 止血被覆 保、薬投 静脈確保、薬投 静脈確保、薬換 人工呼吸、胸骨 心肺蘇生のプロ	投与 バイス、気管挿管 管理 要領 : : : : : : : : : : : : :		*	
授業計画後	16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26	救急救命士が行う処置 パ 効果測定 体位管理・保温・止血 外傷処置 静脈確保・薬剤投与 パ 効果測定 救急蘇生法 救急蘇生法 効果測定	処置	気管吸引、酸素 声門上気道デバ 体位管理、体温 止血被覆、、薬 静脈確保保、薬 静脈確保保、薬 大 心肺蘇生のプロ 手技の確認	投与 「イス、気管挿管管理要領 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		*	

履修上の留意点

まとめ

- 自ら学ぶ意識を醸成する。
 傷病者の観察、判断、処置が傷病者の命を左右することを重大さを意識づける。
 ※授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。また、対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

心肺蘇生、傷病者搬送

科目	1名	救急医学概論Ⅱ			指導担当者名 渡邉 好孝			好孝	
実務	経験	洋	が機関での救急	文急救命士業務従事 実務経験:			実務経験:	有	
開講	時期	前期		対象学科学年 救急救命士			太急救命士科1年	Į.	
授業	方法	講義:〇	演	習:	実	習:	実技	支:	
単位	立数	2単位		週時間数		2時	間		
・病院前医療体制について理解する事ができる。 ・災害医療体制について理解し、説明、実施する事ができる。 ・消防機関における救急活動の流れや、救命士の役割について理解できる。									
評価方法 評価基準		学習評価は、定期試験と授美評定は、学習到達目標や内容・特に高い程度に達成してい・達成が不十分なもの…D(オ	容に照らし次の るもの···A, •高	4段階とする。		·B, •おおむね	達成しているも	Ø…c	
使用	教材	 改訂第10版救急救命士標準テキ	Fスト、標準多数	傷病者対応MCL	-Sテキスト				
授業外学習 の方法		テキストを使用した予復習							
学期	ターム	項目			内	容•準備資料	等		
	1	救急医療体制		上巻P.286~P.294					
	2	救急医療体制		上巻P.286~P.294					
	3	災害医療体制		上巻P.295~P.311、MCLSテキスト					
	4	災害医療体制		上巻P.295~P.311、MCLSテキスト					
	5	病院前医療体制		上巻P.312~P.3	22				
	6	消防機関における救急活動の	の流れ	上巻P.323~P.3	32				
授	7	消防機関における救急活動の	の流れ	上巻P.323~P.3	32				
業 計	8	救急救命士の役割と責任		上巻P.333~P.3	36				
画前	9	救急救命士と傷病者の関係		上巻P.337~P.3	44				
期	10	救急救命士に関する法令		上巻P.345~P.3	57				
	11	救急救命士に関する法令		上巻P.345~P.3	57				
	12	救急救命士の養成と生涯教	育	上巻P.358~P.3	63				
	13	安全管理と事故対応		上巻P.364~P.3	69				
	14	感染対策		上巻P.370~P.3	83				
	15	ストレスに対するマネージメン	ト	上巻P.384~P.3	88				

- ・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

科目	目名	環境障害・	·急性中毒		指導担当者名		髙橋 利行			
実務	経験	洋	前防機関での救急	文急救命士業務従事 実務経験:				有		
開講	時期	後期		対象学科学年 救急救命士科1年			Ē			
授業	方法	講義:〇	演	習:	実 [?]	習:	実技	支:		
単位	立数	2単位		週時間数		2時	計 間			
学習到達目標 環境障害・急性中毒などの外部因子で発生する救急疾患・症候について理解できる										
	方法 基準	学習評価は、定期試験にて7 定期試験は100点法で評点す 100点法による評点は、次の3 ・100~80点…A・79~70点・ ・59~0点…D(不合格)	「る。 基準により4段	階に換算する。 点···C						
使用	教材	救急救命士標準テキスト改訂第	10版							
授業がのフ	卜学習 5法	テキストを使用した問題演習								
学期	ターム	項目			内	容•準備資料	等			
	1	中毒総論		テキストに準拠						
	2	中毒各論		テキストに準拠						
	3	中毒各論		テキストに準拠						
	4	異物		テキストに準拠						
	5	異物		テキストに準拠						
	6	溺水		テキストに準拠						
授	7	熱中症		テキストに準拠						
業 計	8	熱中症		テキストに準拠						
画後	9	偶発性低体温		テキストに準拠						
期	10	偶発性低体温		テキストに準拠						
	11	放射線障害		テキストに準拠						
	12	放射線障害		テキストに準拠						
	13	その他の環境障害		テキストに準拠						
	14	その他の環境障害		テキストに準拠				-		
	15	まとめ		まとめ						

- ・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

科目	目名	シミュレー	−ション I		指導担	当者名	横山 亜矢、渡邉	好孝、髙橋 利行			
実務	経験	洋	防機関での救急	救急救命士業務従事 実務経験:				有			
開講	時期	前期		対象学	科学年	救	救急救命士科1年				
授業	方法	講義:	演	習:	実習	1:0	実	技:			
単位	立数	10単位		週時間数		168	寺間				
学習到	達目標	1五感と観察用資器材を活用 2救命処置の適応者を判断し 3傷病者の症状に適した体位 ・BLS(市民向け、医療従事者 ・隊活動における一連の流れ ・隊長の役割を認識し、包括	、安全に適切な な管理と搬送が 背向け)の習得 、を習得する事	適切な処置が行える技術を身につける。 g送ができる。 習得。 - る事ができる。							
学習評価は、以下の単元ごとに20点満点の試験、授業終了後のシミュレーション試験を行い、その合語には、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 評価方法 評価基準 ・特に高い程度に達成しているもの・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・							行う。				
使用	教材	救急救命士標準テキスト、救急	女急救命士標準テキスト、救急観察処置スキルマニュアル								
	朴学習 方法	テキストを使用した予復習									
学期	ターム	項目			内	容•準備資料	等				
	1	五感を活用した観察		バイタルサイン、全身観察							
	2	資器材を活用した観察		聴診器、体温計	、血圧計等						
	3	資器材を活用した観察		ECG、カプノメーター							
	4	気道確保、人工呼吸		用手気道確保、	BVMによる人工	呼吸					
	5	外傷処置		三角巾、副子等							
	6	体位管理、搬送法		ストレッチャー、バックボード							
授	7	酸素、AED、BVM		酸素、AED							
業計	8	気道確保、異物除去		用手、エアウエー	イ、喉頭鏡						
画前	9	搬送法		緊急救出(毛布	、スクープ等)						
期	10	産婦人科領域の処置		分娩介助等							
	11	在宅療法継続中傷病者処置		在宅傷病者の療法別対応							
	12	産婦人科領域の処置		分娩介助等							
	13	効果測定		観察要領、体位	管理、搬送法						
	14	心肺蘇生		BVM、AED、シ	ミュレーター						
	15	心肺蘇生		BVM、AED、シミュレーター							

- の留息点 1シミュレーションをより効率的に進めるため、学生は積極的に参加し行動すること。 2使用救急資器材の配置場所の把握と愛護的な取り扱いを徹底すること。 3シミュレーション開始前に体操を行うこと。 ※授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。また、対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

科	目名	シミュレ-	ーション I		指導担	当者名	横山 亜矢、渡邉	好孝、髙橋 利行	
実務	経験	洋	肖防機関での救急	教命士業務従	\$		実務経験:	有	
開請	時期	後期		対象学	科学年	非	枚急救命士科1	 年	
授業	授業方法 講義: 演習: 実習:〇				実	技:			
単位	位数	10単位		週時間数		14時間			
学習到	 達目標	1五感と観察用資器材を活用 2救命処置の適応者を判断し 3傷病者の症状に適した体位 ・BLS(市民向け、医療従事者・隊活動における一連の流れ・隊長の役割を認識し、包括	ン安全に適切な 立管理と搬送が 皆向け)の習得。 1を習得する事	処置が行える できる。 。 ができる。	技術を身につけ	ける。			
	ī方法 ī基準	学習評価は、以下の単元ごとに 評定は、学習到達目標や内容に ・特に高い程度に達成しているも ・達成が不十分なもの・・D(不合 ※単元・・1初期評価と心肺蘇生 4静脈確保とアドレナ!	20点満点の試験 に照らし次の4段 もの…A,・高い程 な な な で で で で で で で で で で で で で で で で	、授業終了後の 皆とする。 程度に達成してい	シミュレーション るもの…B,・おる 〔道確保 3気管:	おむね達成して		行う。	
使用	教材	救急救命士標準テキスト、救急	観察処置スキル	マニュアル					
	外学習 方法	テキストを使用した予復習							
学期	ターム	項目			内	容▪準備資料	等		
	16	声門上気道デバイス		i−gel、コンビチュ	ーブ、LT、LM				
	17	声門上気道デバイスを含めた	た隊活動	適応症例に対す	る想定訓練				
	18	効果測定		声門上デバイス					
	19	気管挿管		気管内チューブ	、スタイレット				
	20	気管挿管を含めた隊活動		適応症例に対す	る想定訓練				
	21	効果測定		気管挿管					
授	22	静脈確保		留置針、輸液セ	ット				
業計	23	静脈確保を含めた隊活動		適応症例に対す	る想定訓練				
画後	24	アドレナリン投与		輸液セット、アド	レナリン				
期	25	アドレナリン投与		輸液セット、アド	レナリン				
	26	効果測定		輸液・アドレナリ	ン投与				
	27	血糖測定、ブドウ糖投与		血糖測定器、輸	· 液ライン、ブドウ	———— 糖			

履修上の留意点

29

- 1シミュレーションをより効率的に進めるため、学生は積極的に参加し行動すること。 2使用救急資器材の配置場所の把握と愛護的な取り扱いを徹底すること。

効果測定

エピペン

血糖測定、ブドウ糖投与を含めた隊活動

3シミュレーション開始前に体操を行うこと。 ※授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。また、対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

適応症例に対する想定訓練

血糖測定とブドウ糖投与

エピペントレーナー

							l			
科目	目名	シミュレーションⅡ		指導担当者名 横山 亜矢、渡邉 好		好孝、髙橋 利行				
実務	経験	洋	前防機関での救急	z急救命士業務従事 実務経駅 				有		
開講	時期	前期		対象学	科学年	求	対急救命士科2 :	年		
授業	方法	講義:	講義: 実習:○			実	技:			
単位	立数	10単位		週時間数		108	寺間			
1個々の救命処置スキルのさらなる質向上を目指す。 2隊員間の情報共有と役割分担を円滑に行うことができる。 3安全管理を意識した救急活動を行うことができる。 学習到達目標 ・隊長の役割を認識し、包括的な力を身につける。 ・リスクマネージメントを含め、適切な判断ができる。 ・各病態について原因から処置まで説明、実施する事ができる。										
学習評価は、前期効果測定、後期効果測定を総合して行う。 評価方法 評価方法 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 評価基準 ・特に高い程度に達成しているもの…A、・高い程度に達成しているもの…B、・おおむね達成しているもの…C・達成が不十分なもの…D(不合格)										
使用	教材	救急救命士標準テキスト、救急	観察処置スキル	マニュアル						
授業を	1学習 方法	テキストを使用した予復習								
学期	ターム	項目			内	容▪準備資料	等			
	1	基本的な救急活動	状況評価から継続観察まで							
	2	疾患対応(異物)		早期異物除去と呼吸管理						
	3	外傷対応(転倒)		転倒原因の把握と適切な処置						
	4	疾患対応(胸痛)		適切な観察と緊急度判断						
	5	外傷対応(交通外傷)		緊急度判断と適切な処置						
	6	外傷対応(墜落・転落)		推定外力と受傷部位の想像力						
授	7	疾患対応(意識障害)		観察・問診からの原因疾患の特定						
業 計	8	CPA対応(VF)		早期除細動とアドレナリン投与						
画前	9	疾患対応(アナフィラキシー)		バイタルサインの把握と輸液						
期	10	疾患対応(重症熱傷)		保温・感染防止と輸液						
	11	中毒対応(硫化水素)		安全管理・応援要請と現場保存						
	12	疾患対応(精神科)		傷病者接遇及び警察官との連携						
	13	災害対応(列車事故)		先着隊の行動						
	14	災害対応(交通事故)		応援隊の行動						
	15	前期効果測定		疾患対応						
	の密音と	<u> </u>		l .						

- ・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

科目	1名	シミュレー	-ション Ⅱ		指導担当	当者名	横山 亜矢、渡邉	好孝、髙橋 利行		
実務	経験	洋	前防機関での救急	文急救命士業務従事 実務経験:				有		
開講	時期	後期		対象学	科学年	求	文急救命士科2 2	年		
授業	方法	講義:	演	習:	実習	実習:〇 実技:				
単位	立数	10単位		週時間数		208	寺間			
学習到	達目標	1個々の救命処置スキルの 2隊員間の情報共有と役割が 3安全管理を意識した救急活 ・隊長の役割を認識し、包括・リスクマネージメントを含め、 ・各病態について原因から処	↑担を円滑に行動を行うことだ 動を行うことだ 的な力を身につ 適切な判断が	骨に行うことができる。 ことができる。 身につける。 判断ができる。						
学習評価は、前期効果測定、後期効果測定を総合して行う。 評価方法 評価基準 ・特に高い程度に達成しているもの…A、・高い程度に達成しているもの…B、・おおむね達成しているもの…C・達成が不十分なもの…D(不合格)										
使用	教材	救急救命士標準テキスト、救急	観察処置スキル	マニュアル						
授業を	1学習 5法	テキストを使用した予復習								
学期	ターム	項目			内	容∙準備資料	等			
	16	疾患対応(意識障害・頭痛)		観察・問診・運動機能観察						
	17	疾患対応(痙攣)		問診と観察からの緊急度判断						
	18	疾患対応(めまい)		観察と問診及び医療機関選定						
	19	疾患対応(呼吸困難)		症状の把握と緊	急度判断					
	20	外傷対応(交通外傷)		緊急度判断と適	切な処置					
	21	外傷(刺創)		バイタルの把握	と適切な外傷処置	<u> </u>				
授	22	CPA対応(溺水)		吐物除去と呼吸	:管理					
業 計	23	CPA対応(乳児)		呼吸管理と胸骨圧迫						
画後	24	疾患対応(動悸)		問診と心電図波形の判断力						
期	25	疾患対応(意識障害)		意識障害の原因特定と緊急度判断						
	26	中毒対応(胸痛)		胸痛の原因特定と緊急度判断						
	27	疾患対応(腹痛)		腹痛の原因特定と緊急度判断						
	28	外傷対応(失神)		緊急度判断と適	[切な処置					
	29	外傷対応(腹部外傷)		緊急度判断と適	[切な処置					
	30	後期効果測定		外傷対応						

- ・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。